

第36号

広報委員会発行

関西大学通信

大阪府吹田市山手町3丁目

関西大学広報委員会

昭和47年度 卒業式挙行

巣立つ若い力

昭和四十七年度卒業式は本学が
新制に移行してから、ちょうど二
十五回目に当たる。すでに四半世
紀がすぎたわけである。この記念
すべき卒業式が三月二十四日(土)
に行なわれ、この日、新たに四、
七二名、第二部四九〇名、第二部五
七六名の新学士が誕生する。お

新制25回目の新学士

大学院修士
記授与式も

目出度。各学部別の卒業生の数
は、
法学部第一八四四名、第二部
二二三名、文学部第一四八八名
第一部九一名、経済学部第一部
名、社会学部第一二五五名、第
二部四三名、工学部一、〇〇一名
また、大学院においても三月一
十七日(火)修士課程修了者なら
びに博士課程単位修得者に対し、
修士の学位を授与される者は、法

学三三名、文学三三名、経済学六
名、商学八名、社会学四四名、工
学一名の合計一五四名である。
また、博士課程単位修得者は二六
名(法三、文五、経四、工四)で
ある。

貴重な四年間 の幾多の体験

本年、新たに卒業する諸君が入
学したのは昭和四十四年、大学紛
争の最も激しかった年である。本
学も同様、文部次官通達などに
反発して各学部では討論集会など
が開かれ五月、六月には法・文
・社の三学部がストに突入、関大
会館も共闘学生に占拠される
という状態になった。夏休みに入
って大学執行部は種々対策を練る
が、ついに八月末には中谷学長が
辞任、九月明石教授が学長代行
となり、機動隊による封鎖解除、
警二万ラウンドでの金集金の開
き、

今年、新たに卒業する諸君が入
学したのは昭和四十四年、大学紛
争の最も激しかった年である。本
学も同様、文部次官通達などに
反発して各学部では討論集会など
が開かれ五月、六月には法・文
・社の三学部がストに突入、関大
会館も共闘学生に占拠される
という状態になった。夏休みに入
って大学執行部は種々対策を練る
が、ついに八月末には中谷学長が
辞任、九月明石教授が学長代行
となり、機動隊による封鎖解除、
警二万ラウンドでの金集金の開
き、

の金集金の行なわれたのは十月
七日のことであった。十一日には
機動隊の駐留のもと、検問体制
をとりながら、授業が再開され、
また十一月には改革準備委員会
が発足した。
この大揺れにゆれた七月間、
諸君はどうだったのだろうか。大学
に入学して間もなく、この大揺れ
に巻き込まれたかかわらぬまま
で、

セクト間の暴力事件はまたつづ
き、さらに授業料値上げの発表
(十月二十日)前後から、学内で
は再び紛争が再燃、十一月には教
人事件まで発生、ついに冬休みの
繰上げ、ロック・アウト、学年末
試験はレポートに変更され、この
年もまた機動隊駐留下での入試と
なった。この間、再び過激派学生
により学舎の破壊が行なわれた。
しかし、四十七年度に入ると学内
はどうやら平穏にもどったのであ
る。

諸君の在学期間は、最後の一年
を除き紛争の連続だったようであ
る。しかし、明るいニュースが無
かったわけではない。とくに四十
七年二月には全国的に暗いニュー
スが少なかった中で、考古学教室の
手による「高松塚発掘」という朗
報がもたらされた。さらに野球部
の全国優勝も忘れずとほできな
い。施設や組織面では電算機室
(四十六年一月)や保健管理センタ
ーの発足(四十六年四月)などがあ
った。
ところで、目を日本および世界
に転ずると、日中関係の回復、ベ
トナムの停戦といった明るい面が
でているが、ドルの再切り下げによ
る通貨問題は世界を大きくゆさぶ
っている。また国内では公害、イ
ンフレなど、その対策に政府は重
に過ぎません。その応用は突に
今後の皆さんの一生に懸って
います。これからは自主的な勉
学を志してはなりません。私は
学生には「静かに本を読め」と
いいたいのですが、社会へ出た
人にも、この時間がほしいもの
です。社会そのものの経験も
もちろん皆さんに役立つてしま
うが、それを導きそれを消化し
て自分のものとする力が、自分
になくては何もありません。そ
れに私はあまり健忘を組んで事
に当る人には好意をもちませ
ん。まず自分で何を一番なす
べきか、よく見定めて進みなさ
い。自分の意見のないほど憚れ
な人はありません。

卒業生の諸君へ

皆さんは卒業おめでとうとい
います。この四十年の大学生活
は、皆さん方にとって、それぞ
れ思い出としておのこを存じ
ます。

先日テレビに六五歳で今春定
時制高校を卒業される四國のう
どん屋さんのことが映っていま
した。兵隊の経験もある、日本
の激動と共に生きてきたこの人
が晩年になって、なお向学の志
捨て難く、六十の手習いをなさ
ったことはなんとうれしいこと
ではありませんか。それに較べ
ると皆さんは「鉄は熱いうちに
打て」の諺そのままに、丁度最
も勉学に適した年齢に、最も高
い教育を受けた幸福は何に
も換えられないものではありませ



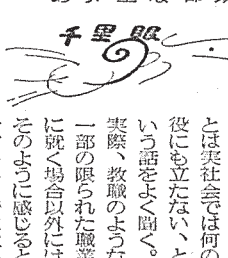
学長 広瀬 捨三

自主的勉学で 大成をねがう

卒業と同時に「これから始ま
る」ということを忘れてはなり
ません。大学は各種免許学校の
の科目は一応それで完結して
おりますが、皆さんの物の考え
方、勉強の仕方をお教えたの
で、

願わくは卒業される才子佳人
の皆さん方、どうか健康に留
意されまして他日の大成を期し
て下さい。

とほで社会では何の
役にも立たない、と
いう話をよく聞
く。実際、教職のような
一部の限られた職業
に就く場合以外には
そのように感じること
が、多いのではない
かと同意。しかし、はたして全く
役立たぬものなのだろうか。▼諸
君やせいで得た知識そのものを問
題にするなら、それがどうして生
かせるような職業に就く人は確
に非常に少ない、しかし、とくに
新たに卒業して、巣立つて行く諸
君、諸君は知らず知らずのうちに
関大が身に染み込んでいる。また諸
君やせいで得た知識そのものを問
題にするなら、それがどうして生
かせるような職業に就く人は確
に非常に少ない、しかし、とくに
新たに卒業して、巣立つて行く諸
君、諸君は知らず知らずのうちに
関大が身に染み込んでいる。また諸



千里眼

卒業生に贈る言葉

卒業生は、社会の柱となる。社会の発展は、卒業生の活躍にかかっている。卒業生は、社会のリーダーとして、社会の発展に貢献する責任を負っている。卒業生は、社会の発展のために、自己の能力を最大限に発揮し、社会の発展に貢献する責任を負っている。卒業生は、社会の発展のために、自己の能力を最大限に発揮し、社会の発展に貢献する責任を負っている。

純粋な友情を大切に 社会環境に知的輝きを



上林 良一

上林 良一

卒業生は、社会の柱となる。社会の発展は、卒業生の活躍にかかっている。卒業生は、社会のリーダーとして、社会の発展に貢献する責任を負っている。卒業生は、社会の発展のために、自己の能力を最大限に発揮し、社会の発展に貢献する責任を負っている。

新しい文明の戦士として船出を



中村 亮輔

卒業生は、社会の柱となる。社会の発展は、卒業生の活躍にかかっている。卒業生は、社会のリーダーとして、社会の発展に貢献する責任を負っている。卒業生は、社会の発展のために、自己の能力を最大限に発揮し、社会の発展に貢献する責任を負っている。



中村 亮輔

卒業生は、社会の柱となる。社会の発展は、卒業生の活躍にかかっている。卒業生は、社会のリーダーとして、社会の発展に貢献する責任を負っている。卒業生は、社会の発展のために、自己の能力を最大限に発揮し、社会の発展に貢献する責任を負っている。

「一期一会」の気持で 日々新たな悔いなき生活を

卒業生は、社会の柱となる。社会の発展は、卒業生の活躍にかかっている。卒業生は、社会のリーダーとして、社会の発展に貢献する責任を負っている。卒業生は、社会の発展のために、自己の能力を最大限に発揮し、社会の発展に貢献する責任を負っている。

精神なき専門人 となるなかれ!



野崎 治男

卒業生は、社会の柱となる。社会の発展は、卒業生の活躍にかかっている。卒業生は、社会のリーダーとして、社会の発展に貢献する責任を負っている。卒業生は、社会の発展のために、自己の能力を最大限に発揮し、社会の発展に貢献する責任を負っている。



中村 亮輔

卒業生は、社会の柱となる。社会の発展は、卒業生の活躍にかかっている。卒業生は、社会のリーダーとして、社会の発展に貢献する責任を負っている。卒業生は、社会の発展のために、自己の能力を最大限に発揮し、社会の発展に貢献する責任を負っている。

健康・体力・粘り

対人関係を大切に
専門知識の吸収を

新修上への祝辞

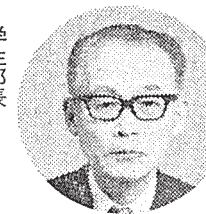


安田 信一

卒業生は、社会の柱となる。社会の発展は、卒業生の活躍にかかっている。卒業生は、社会のリーダーとして、社会の発展に貢献する責任を負っている。卒業生は、社会の発展のために、自己の能力を最大限に発揮し、社会の発展に貢献する責任を負っている。

社会の実態見失うな

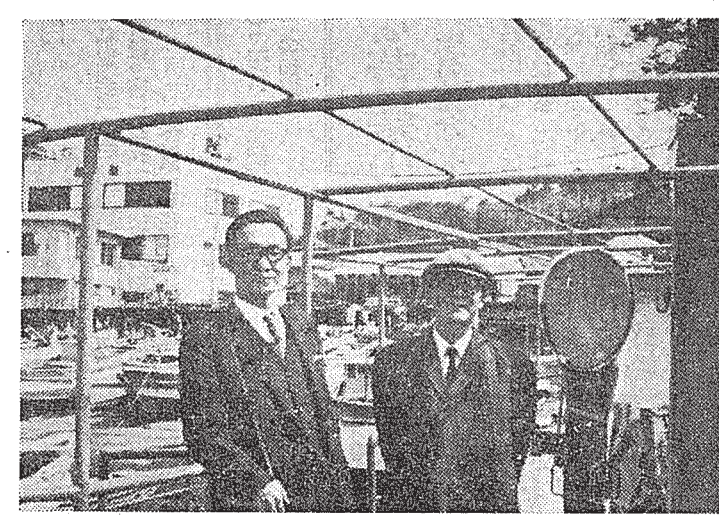
常に学問の精神忘れずに



角田 文雄

卒業生は、社会の柱となる。社会の発展は、卒業生の活躍にかかっている。卒業生は、社会のリーダーとして、社会の発展に貢献する責任を負っている。卒業生は、社会の発展のために、自己の能力を最大限に発揮し、社会の発展に貢献する責任を負っている。

追悼文



池田 定太郎教授を悼む

明石 三郎

偉大な功績に敬意 生涯の友へ深い悲しみ

卒業生は、社会の柱となる。社会の発展は、卒業生の活躍にかかっている。卒業生は、社会のリーダーとして、社会の発展に貢献する責任を負っている。卒業生は、社会の発展のために、自己の能力を最大限に発揮し、社会の発展に貢献する責任を負っている。

むなし必死の闘病

金属摩耗に一生を捧げる

中村文俊助教授を偲ぶ

卒業生は、社会の柱となる。社会の発展は、卒業生の活躍にかかっている。卒業生は、社会のリーダーとして、社会の発展に貢献する責任を負っている。卒業生は、社会の発展のために、自己の能力を最大限に発揮し、社会の発展に貢献する責任を負っている。

追悼文

堀

[illegible]

田中召太郎

高柳ゼミ旅行の記念撮影

山口 門

学生野球の王座

山口 円

「力と和の教訓」を
実社会で役立てる

光陰矢の如しとか、私の大先輩は、
酒は今、振り返って見れば、十
分短い期間だと言っていました。

特に有益なゼミの教訓

[illegible]

編入や研究活動に

勉学の場や厚生施設の利用を

卒業後も勉学の場として、また厚生施設の面を母校に利用することとします。その方法を次に掲げておきます。

(一) 再度の勉学を希望する場合

再度の勉学の必要と希望が生じたときには、聴聞科や文学大学、あるいは学院学の手続きを取ることにできます。文学の研究会を利用することも可能です。

(二) 聴講生 規定に基づいて書で希望者はこれを請うて、希望書はそれを請うて、

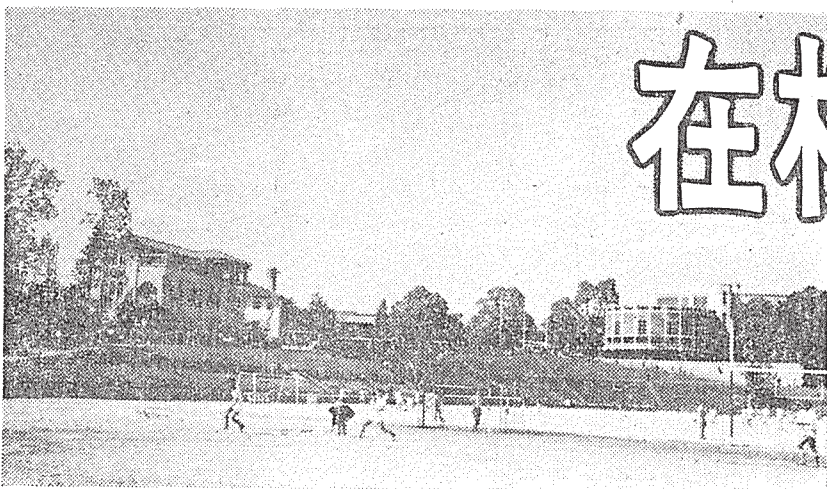
○大学院博士課程 本学大学院には、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、社会科学研究科、工学研究科がありま

す。卒業生は指定の入學試験(普通・外語組、面談)を経入學が許可されます。募集時期、試験料などは詳細については本院事務所へ。

(三) 学会、研究会

○司法試験受験研究会
士会法廷専門機関に就くことを希望する者が、本学在學生に卒業後、この研究会に入社することを奨励しています。

○募集時期：毎年七月月上旬
○入費：月額一五〇〇円
行政試験受験研究会



11

卒業におもう

め、別年に見られない多くの苦悶階層（六）
勞がたつたものと云われる。これでも
たつたもの諸君は読破が決定
し、それだけ階級に對して小の
期待でくらが階級に對して
で入社目を見ていてゐると思
ふ。

心算者、インテリゲンチヤ、
ミラナ等は、若い人間の
職業的進路階層研究が、
それにまた成説階層（發生一
の階層の終りに近づいてゐるの
階層）を別されてゐる。

これは、階級である。これは
残存行動である。階級は、こ
るなものは就其階級と云ふ事
役立つた行動の仕であら
う。一時的な情や利ではな
い。

のことはない。
一時的行動に
かられて退屈
するところ、その階級に
いては退屈である。なが目
で見て大苦痛である。

階級は、純粋的階級である。
二階級に分つて、満足であ
り、また階級が社会に對して
役立つた行動の仕であら
う。一時的な情や利ではな
い。

を問はず、非階級のあつた
かたをもおしなへた多量で
たつたものではない
最後一階級の淨土「階
階」（優等生）は、
階級と云ふものは、
階級である。階級は、
階級の階級を實現して欲
いものである。他人の助に
己階級の一層を懸念がた
たつたものと思ふ。

（社会部教授）

相互扶助の精神忘れず
返還は早目に計画して

奖学金

卒業後も利用できる

[illegible]

探検部で今後も活動を

山本三郎

[illegible]

—50歳で卒業の井口正信

[illegible]

でも黙してはがっていた。天候にも思わず、鷹居の五重障子にタタキを敷き、完全な無防備に終わりの、下山の日。伏魔の元祖の朝に果光を穿たぬ、冥冥は山に來た虎を初めに知た日であつた。

下山後、メンバー始め、本格になり、砂の研究が始まり、たゞの足跡を得た後、昭和四十六年、O・Bの福民さんで、オーストラリア西岸（南緯）砂漠に遭害された。オーストラリア西岸の砂漠に遭害された。

を高めよう努力したところが思ひ出される。特にその教訓は貴いものである、今となっては芝が一年間配であれと感ずるものであります。

(第二部長學部)

で書て、海外遠征の経験のない私の親等の行は、失敗の連でござい。州都へ入るの一週間の前、病を癒へ、傾けた入に入つたので、自らの雄大で、恐るべき一日して初めに庄屋に於てまつた。赤赤に砂の平原を渡つた。

(文學部・中國文學科)

三つは、

2 館内閲覧
閲覧方法は在学中と変わりません。図書券を提出して、図書を利用（閲覧・貸出・複写）することが出来ます。

就職決定届

提出について
令番の卒業生就職先の決定し
ている人ならびに将来の方針
に届け出て下さい。

関西大学は、明治十九年

[illegible]

▼三月は時の別で、われわれの心を突いてくる。本年も「昨年」で去られる先生方がおられる。絵の価値は持主の交差で変してしまふ。その一回性はどうしようもない。時の重みを体感しつつ、またその人格に触れ得たことに感謝しながら、談々たる言葉に胸に納めたい。そして少なとも「道荷伝」は信じていたい。先生方の今後のご活躍とご健勝を切に祈ります。